

地域医療により大きく貢献!!

いのち、 痛みに全力

FUKUOKA WAJIRO HOSPITAL

VOL. 35

2015 / January

CONTENTS

- ❶ 新春を迎えて／院長 伊藤 翼
- ❷ 新任医師のご紹介
- ❸ 診療部長の新春のごあいさつ
- ❹ EURO SPINE 2014に参加して
- ❺ ヨーロッパ核医学会にて
- ❻ 医療連携室だより
- ❼ 第1回「明るく元気な体操フェスタ」開催
- ❽ 緩和ケア「いのちのホームルーム」に講師として参加
- ❾ 院内旅行の思い出
- ❿ トピックス／あたまの体操

社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院

基本理念

手には技術
頭には知識
患者様には愛を

基本方針

- 1. 高度医療 学問的に高い水準の医療を提供します。
そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
- 2. チーム医療 患者さまの目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、急性期医療から、早期リハビリ、退院支援までニーズに沿った医療を提供します。
- 3. 地域医療 いつでもだれでも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療施設・福祉施設と密接な連携を推進します。

[New Year's news]

地域医療支援病院に 承認されました!

写真: 当院ヘリポート 日の出



新任医師の ご紹介

糖尿病センター長 石井 正夫
●熊本大学医学部卒 ●資格／日本内科学
会認定医 日本糖尿病学会指導医 日本糖
尿病学会専門医、日本内分泌学会専門医

●西日本医科学学生総合体育大会優勝(上段左から2番目)



ご趣味を 教えてください。

実際に言う機会が極端に減少しま
したが、スポーツ番
組に関しては種目を
問わず関心が有り
ます。学生時代は
サッカーより野球
が華で、長島・王の
巨人野球に一番関
心が有りました。

ご出身はどちらですか？

生まれも育ちも、最近「くまモン」
で知名度が上がった熊本です。

なぜ医師を 志したのですか？

私が進路を決めた当時は、一般の
医療現場に生化学検査(採血検査)
が飛躍的に導入された時代で、親
戚が臨床検査センターを開設した
事もあり、聴診器を使わないで病
気の診断や経過が分かる事に大き
な関心を抱きました。「もう少し現
場を見て詳しくなりたい」との思
いで医科系を選択しました。

糖尿病について 教えてください。

当時内科には4講座が有りまし
たが「幅広く診療経験が積める」
との勧めで熊本大学第二内科に
入りました。大学では血液疾患
が主体でした。血液疾患は全身
疾患的な様相を呈しますので診
療経験としては役立ちました。
その後外勤を終えて大学に戻っ
た時に、先輩からの電話で急に
熊本中央病院内科で糖尿病診療
を専攻するように要請されまし
た。まずは①先輩から依頼され
た事には責任を果たす。②患者
さんに有用な医療を実践する。
③望まれる医療を提供できる施
設を作る。等を目標に糖尿病診
療に従事し、糖尿病学会の教育
認定施設の資格を取得しました。

糖尿病について

糖尿病は全世界で増加していま
す。私が糖尿病診療を始めた時
代は、教育用ビデオのタイトル
は「100万人の糖尿病」でし
たが、今は患者数が1000万



人近くになっています。WHO
が2006年に、インスリンの
発見で有名なバンティング先生
の誕生日・11月14日を「世界糖
尿病デー」に制定し世界各地で
啓発活動が行われています。
「高血糖状態を放置して、合併
症が出現して治療を開始した」
といった事が起こらない様に初
期教育と中断しない診療体制の
充実が大事です。急性期医療を
主にした福岡和白病院でも患者
療養・指導の為に充実した連携
体制作りが目標です。どうぞ宜
しく御願い致します。

新春を迎えて

福岡和白病院院長 伊藤 翼

福岡和白病院は昭和62年7月開
院以来27年、新病院として現在
の地に移転して以来9年になり
ますが、地域の中核病院として
一貫して24時間365日の救急
救命に、高度先進医療の充実を
図るとともに、「患者さんと共
に生きる」チーム医療体制作り
に取り組んでまいりました。
幸いにも約3年前から準備して
きた地域医療支援病院の認定を
昨年末12月5日付けで福岡県知
事から承認されました。地域医
療支援病院運営委員会を平成24
年12月から計6回開催し、委員

の福岡市医師会長・江頭啓介先
生、福岡市東区医師会長・辻裕
二先生の推薦書も頂き、東区保
健所長、東消防署長をはじめ委
員の皆様にこの場を借りて感謝
申し上げます。これを機に当院
では今まで以上に地域の医療機
関や介護事業所との連携を深め、
地域医療を充実させて地域に密
着した病院としての役割を果た
してまいります。
さて、2014年度の診療報酬
改定は、2025年度に完成を
目指す「地域包括システム」の
構築に向けて、中医協が重点課

題に設定したのは「医療機関の
機能分化と在宅医療の充実」で
あり、最も手厚い看護配置で診
療報酬が高額な7対1入院基本
料を厳しくして絞り込み、その
受け皿を整備することに注力し
た内容でありました。2014
年度2月末に当院にとって3回
目となる病院機能評価の受審で
は、その訪問審査の判定結果に
「高品質な高度急性期医療を提
供している。貴院には常に最
善・最新の医療技術を求める文
化が根回していることを確認で
きた。今後とも我が国のトップ



●伊藤 翼(いとう・つよし)／昭和17年、長崎県美津島町(対馬)
出身。九州大学医学部卒。68年九大医学部付属病院研修医、75
年アメリカ合衆国医師免許取得、76年筑波大外科講師、82年
佐賀医科大外科講師、85年同大学外科学教授、06年同大付属
病院副院長。趣味は野球、テニス、ゴルフ。

ランナーの一員としてのさらな
る発展を期待したい」と記され
ていました。
当院の昨年の目標の救急ワー
クステーション、地域医療支援病
院の承認は達成されたので、今
年は
①高度急性期病院に特化して地
域医療を支えること。
②最高の病院を目指して職員満
足度に重点をおく。
③医師人事評価制度の構築。
を目標として考えています。





NEW YEAR GREETINGS



診療部長の新春のごあいさつ

整形外科部長 半仁田 勉



新年あけましておめでとうございます。整形外科では今年も、四肢外傷・関節疾患等の患者様に満足していただけるよう今年も全力で取り組んでいきます。
関連病院や地域の他施設との連携も深め定期的に情報交換を行い、4月には新たに数名の若手専修医を迎え入れて皆で向上心をもって頑張っていく所存です。

リウマチ・関節センター長 林 和生



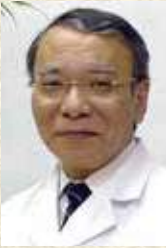
画期的な運動療法プログラムを取り入れ初診前に他の病院で手術と言われた患者さんの多くが手術の回避・延期が可能になりました。常に本当に必要な手術かどうかを適切に判断し、本プログラムでも改善しない真の難治例に手術を行う場合は術前リハビリを行うことでよりよい予後(術後早期の杖なし歩行)を追求します。

脊髄脊椎外科部長 井上 崇文



2013年4月より中原誠之先生が加わり、年間手術件数が250例以上に飛躍的に増えました。これまで以上に救急症例にも対応できるようになりました。今後も地域の皆さまのために貢献できるよう努めていきたいと思ひます。

乳腺外科部長 久保田 博文



新年あけましておめでとうございます。乳腺外科は、乳がんを中心に乳腺疾患を扱う診療科です。自覚症状のある患者様や検診で要精査となった患者様に対する診断や、乳がん患者様への手術を担当しておりますが、化学療法・放射線療法・内分泌療法・分子標的療法を駆使した治療にも取り組んでいます。

外科部長 田原 正宏



あけましておめでとうございます。昨年は手術症例も増加し、また胃癌や大腸癌に対する腹腔鏡下手術も、安全に行うことができました。本年も地域の中核病院として、迅速な対応と、安全かつ丁寧な治療を心がけてゆく所存です。本年も宜しくお願い致します。

脳神経センター長 福山 幸三



開頭手術、血管内手術、定位放射線手術という、『三本の矢』を用いて、最も安全で侵襲の少ない、スマートな治療を目指しています。専門的治療だけでなく、健全な加齢のための健康セミナー、脳ドック、リハビリテーション、訪問診療にも力を注いでいます。次世代の医療を担う人材育成を、最重要課題として取り組んでいます。

脳血管外科部長 原田 啓



血管病は臓器別の診療に向かない分野です。当院では心臓・脳・血管センターの立ち上げから3年が経過し、脳血管病を全身の血管病の一部として診療する体制が定着してきたように思ひます。福岡東部の基幹病院としての脳卒中救急と総合血管外来の充実に努めます。

ガンマナイフセンター長 高木 勝至



旧年中はガンマナイフ治療をご理解、ご協力頂き、誠にありがとうございます。平成7年に全国で14番目に治療を開始し、7,200例を超える患者様を治療させて頂きました。特に平成23年に最新の治療装置(PERFEXION)を導入し、より治療効果に優れ、副作用の少ない治療が可能になりました。今年も安全で満足できる治療に努める所存です。

心臓・脳・血管センター長(HNVC) 岡崎 幸生



地域の皆様の安心で健やかな日々を心から祈念しております。厳しい状況であっても、絶対に諦めず怯まず、心臓・脳・血管センタースタッフ一同、チームワークで365日24時間、地域の皆様の医療に取り組みます。本年もご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

循環器内科部長 大塚 頼隆



福岡和白病院に着任して5年になりますが、その間にスタッフは充実し、心臓・脳・血管センターの設立がありました。今年にはさらに飛躍する1年にしたいと思ひます。急性期から慢性期の心臓病に対して、開業医の先生方と連携しながら、患者さまの満足いく最高の医療をスタッフ一同心掛けておりますので、今年もよろしくお願ひいたします。

循環器内科部長 野口 博生



福岡和白病院に不整脈担当として赴任し、今年で丸10年になります。この間はデバイスは進歩し、アブレーションの技術は向上し、新規抗凝固薬などの参入もあり、診療領域は大きく広がりました。これからも、今まで以上にこの地域の不整脈診療に貢献できるように頑張りたいと思ひます。宜しくお願いします。

総合診療科部長 馬場 健吉



平成26年4月より開設した総合診療科は専門分化が進んだ医療の中で、初期診療を行って、診察や画像診断を十分に行って、しっかりと診断を行い、適切な治療に結びつける診療科です。各診療科との連携も十分に行っています。新年を迎え、地域の先生方との連携を行いながら、益々の診療のレベルアップを行って参りたいと思ひます。

総院長 兼 統括外科主任部長 藤田 博正



新年明けましておめでとうございます。当院は地域の基幹病院として質の高い医療をめざします。医療安全、院内感染防止、クリニカルパスの導入などを徹底し、common diseasesを安全確実に治療します。かかりつけの先生方から信頼され、皆様が安心して受診できる病院、それが福岡和白病院の目指す病院像です。

循環器内科 統括副院長 齋藤 太郎



切り拓く力 継続する力 そして創意工夫
福岡和白病院は開院から30年になり地域中核病院として十分に貢献できるまでに発展してきました。今後の10年、20年を考える時、さらに内容を充実させその地位を確固たるものにしていかなければなりません。それは地域に対する責務であるといえます。そのためには、伝統を継続しつつ未来を切り拓いていかなければなりません。全員が創意工夫に務め前進できるように希望します。

内科主任部長 田口 文博



新年明けましておめでとうございます。当科は、ERを窓口とする急性期疾患から糖尿病、悪性腫瘍等の慢性疾患に至るまで多数の患者様を担当させていただいております。
昨年は新たに糖尿病、呼吸器疾患を専門とする石井医師、長岡医師を迎えることができました。一方、本年の新卒生から新・内科専門医制度が導入されます。患者様やご紹介いただく近隣の先生方のみならず、研修医にも満足頂ける内科を目指します。

内科 糖尿病センター長 石井 正夫



昨年11月から勤務して初めての新年を迎えます。糖尿病診療は慢性期医療ですが、療養期間中に急性期疾患を併発したりします。車の運転でブレーキとアクセルを上手に使うって安全運転を行う事に似ています。急性期医療を主にした医療機関で患者療養・指導の為に充実したシステムを作りたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。

EURO SPINE 2014に参加して

脊髄脊椎外科医長 中原 誠之／臨床研修医2年目 美山 和毅



この度フランスのリオンで10月に開催されたEURO SPINE 2014に参加させて頂く機会を得ましたので報告致します。脊髄脊椎外科を研修していた際に中原誠之先生と井上崇文先生に海外学会に抄録を出してみないかと言われ提出したものが運よく採択された次第です。お二人の多大なる力添えの末フランスに旅立つてきました。

EURO SPINEはヨーロッパの学会で最も大きく、会場には様々な国籍の方々が集まり議論を交わしていました。数千人規模の各国の脊椎の精鋭達が集結していてもいい刺激になりました。夜は中原先生や他施設の脊椎の先生方と夕食を同席させていただき貴重なお話を拝聴することができました。今後は診療の中で常に疑問を持ち、検証検討を重ね、蓄えていったものを学会で発表していく姿勢を持ちたいと強く思うようになりました。学会参加の機会を与えて下さった中原先生、井上先生に本当に感謝します。ありがとうございました。

臨床研修医 美山 和毅

ヨーロッパ核医学会にて発表、講演を行いました。

平成26年10月19日から22日の間、スウェーデンのヨーテボリで開催された

ヨーロッパ核医学会(EAMN'14)において

「Palliative pain relief therapy for bone metastasis using concurrent therapy of Strontium-89 chloride with Zoledronic acid」

という演題を発表して参りました。

総合診療科部長 馬場 健吉

内容は放射線内用療法とビスホスホネート製剤を併用することで、癌の疼痛緩和がこれまでの報告より良好になったということです。(これまで60〜90%程度ですが、我々の研究では93%になったと報告しました。)本学会はこの分野では世界中でも大きい学会です。当初はポスター展示でしたが、演題の内容を認めていただき、核医学治療の分野で5演題に選択され、口演も行いました。座長より、ゾレドロン酸との併用で疼痛効果があることを、このようにまとめてもらうことで、内容が理解できたとの話をいただきました。また、ヨーロッパでは癌の疼痛緩和だけでなく、癌自体も縮小効果があることに興味を持ってたとの意見をもらいました。今後、論文文化して、この治療法を広めていこうと思いました。

画像診断の中でも核医学分野は目覚ましい発展を遂げており、新たなPET検査として、肝腫瘍・脳機能のイメージングなどは、日本では行われていない検査ですが、海外では多く行われており、一早い導入の必要性を感じました。また、診断機器もSPECT-CT(CTと融合した核医学装置)、PET-MRI(MRIと融合したPET装置)など最新機が展示されており、興味を持ってました。



今回の参加者は5,500名で、現地であつた日本人は約10名でそのうち、近畿大学の細野教授と金沢大学の絹谷教授と会うことができました。同時に、2022年に日本(京都)で世界核医学会を開催してほしいとの宣伝もして参りました。

イエテボリの街並みは、計算されたように美しい洋風建築になっており、中心街には路面電車とバスが行き交い、自動車は日本ほど多くありませんでした。バスの値段は6日間乗り放題で約1400円と格安でした。ただ、物価は高く、缶コーヒ等約200円、ランチやハンバーガーも1000円くらいでした。ストックホルムまで足を伸ばし、ノーベル博物館やスウェーデン国王の貯蔵品展示の観覧を行いました。

今後も臨床を行いながら、さらに研究を深めていきたいと新たな気持ちになりました。国内だけでなく国際学会に出席して、いろいろな刺激を受けることは研究を続ける上で、大切なことだと改めて感じました。

診療部長の新春のごあいさつ

病理検査科 臨床検査部長・特別顧問 渡邊 照男



今年は新病院として現在の地に移転して10年になる節目の年であり、地域の中核病院として高度先進医療の充実と実績に更なる努力が課せられています。高レベルの診療の基盤は精度の高い検査データと正確な病理診断にあることを肝に銘じ、スタッフ一同心を合わせて飛躍の年を目指したいと思っています。

呼吸器外科部長 吉松 隆



肺癌、気胸、縦隔腫瘍、膿胸など呼吸器外科疾患の診療、手術などの臨床面での医療レベルの向上はもとより、研究・学会活動も積極的に行うことにより、技術、知識、そして、愛のある医療を目指して、今年も全力を尽くしていく所存です。

麻酔科部長 富永 昌宗



新年あけましておめでとうございます。当院では、今年も3,000例を超える手術の麻酔管理を行います。外科系各科協力のもとに手術侵襲から患者様を守る立場でより質の高い安全な医療を目指します。少数精鋭ですが頑張りたいと思います。

ER副部長 白馬 雄士



明けましておめでとうございます。昨年も多くの救急に対応させて頂きました。年々増加する救急医療のニーズにお応えすべく病院の体制をますます充実したものにしていきたい所存です。本年も24時間365日、地域の皆さまに安心な医療を提供できますよう頑張つて参ります。

放射線診断・治療センター部長 上野 雅子



当センターでは、常勤医4名と非常勤医5名体制で画像診断、放射線治療、塞栓止血術等の血管内治療を行っています。多角的チーム医療の一環として当院外科、内科や近隣医療機関との綿密な連携を取りつつ、患者様方へより質の高い医療を提供できるように尽力させて頂く所存でございます。

泌尿器科部長 吉永 英俊



現職に着いて15年。年間の外来総数は現在6,000人を超え、着任当時からほぼ倍増しています。腎・尿管疾患の腹腔鏡下手術や膀胱全摘術も行っています。増え続ける透析患者さんへの診療に一層力を尽くします。

眼科部長 小山田 剛



新年明けましておめでとうございます。白内障を中心に緑内障や加齢黄斑変性症など治療を行っております。地域医療の為、よりよい医療が提供できるようスタッフ一同日々精進して参ります。本年も宜しくお願いします。

腎臓内科部長 長野 善朗



新年明けましておめでとうございます。慢性腎臓病の患者様は毎年増加しており全国の血管透析の患者様は33万人を越えそうな勢いです。慢性腎臓病は健康診断の検尿で早期診断が可能ですので早めに受診して頂ければ確定診断及び加療が開始できます。透析に至る患者様を少しでも減らせるように今後も努力していきたいと思ひます。

患者さまが安心して生活できる医療環境となるよう全力でサポート致します。

医療連携室だより

わが町の介護施設のご紹介

M.T奈多ケア院

介護老人保健施設(計300床※短期入所療養介護10床)

“わが家”のようにくつろげる場所です。
要介護状態にある利用者の方々の日常生活を支援しております。

■住 所：福岡市東区雁の巣1丁目7番30号
■電 話：092-607-1211 ■FAX：092-607-7991

★入所相談から、在宅介護の相談まで、お気軽にご連絡ください。
(受付時間午前9時～午後5時)

- 入所条件要／要介護1～要介護5の認定を受けた方
- 利 用 料／介護保険1割負担分、食事代及び居住費（※所得に応じて減免制度あり）
- 居 室／個室10室、2人部屋21室、4人部屋62室
- リハビリテーション／理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の指導のもと、一人一人に合ったリハビリプログラムを実施しています。

施設長より一言

M.T奈多ケア院は平成元年に開設した施設です。同じ敷地内には特別養護老人ホームの奈多創生園や、ケアハウス海の中道もあるので、入所希望者の状況によって選択することができます。施設入所後に病気になった・治療が必要になった場合は、協力医療機関である福岡和白病院で治療してもらうこともできるので安心です。

“今、頼いとやすらぎを”の理念のもと、これからも地域の皆様に頼られる施設になりたいと思います。



相島の診療所との関わりについて

相島には唯一の診療所が存在するため、診療所の新富先生・看護師さんと情報交換を行い、対象者の医療的な背景や

相島での事業内容について
新宮町地域包括支援センターの依頼を受け、私達リハビリテーションスタッフ(理学療法士・作業療法士)が月に2回、相島へ渡航し介護予防事業を行っております。



新宮町地域包括支援センターのスタッフと80歳以上の方のご自宅を順次訪問し、身体的・精神的な健康状態の確認・相談に加え、日常生活動作の確認と助言、ご自宅での健康維持のためのトレーニング指導、住宅改修(手すりの設置やお風呂の改修、段差解消など)の提案、介護保険サービスの説明と提案、相島の施設(小規模多機能施設)職員への介護指導・援助指導など多岐にわたります。こういった活動が転倒や病気の発症を未然に防ぎうる可能性があり、健康寿命の延長に寄与出来るのではと感じております。

今後の課題について

今後は介護保険制度の説明会や、医学的な知識に関する研修会、介護技術の研修会、健康維持のための体操教室などを行い、島民によるインフォーマルなサービスを活用し、地域で高齢な方を支援していく一助になりたいと思います。今後も新宮町、診療所、施設、相島の方々と連携を図りながら地域に根ざしたネットワークシステム作りを励んでいきたいと思っています。



●新富先生を囲んで

地域医療支援病院に承認されました!

当院は平成26年12月5日付で、福岡県知事より『地域医療支援病院』に承認されました。

「地域医療支援病院」とは

地域医療支援病院とは、地域医療の第一線を担う「かかりつけ医」に対する支援を通じて地域医療の充実を図るため、その支援に必要な設備や機能を有する施設として都道府県知事より承認された病院を指します。

地域医療支援病院の要件

- 1) 他の医療機関から紹介された患者に対し医療を提供すること
・紹介外来制を原則としており、紹介率が80%を上回っていること
このほか、次の①②いずれかの条件を満たす場合も同様の取り扱い
①紹介率が65%を越え、かつ、逆紹介率が40%を上回ること
②紹介率が50%を越え、かつ、逆紹介率が70%を上回ること
- 2) 建物・設備・機器などを地域の医師が利用できる体制を整えていること
- 3) 救急医療を提供する能力を有すること
・24時間体制での救急患者受け入れ
・重症救急患者が優先使用できる病床の確保
・救急車による傷病者の搬入に適した構造設備
このほか、次の①②いずれかの条件を満たすこと
①医療圏内の救急搬送件数の5%以上を担うこと
②年間1,000件以上の救急搬送患者の受入を行っていること
- 4) 地域の医療従事者の資質向上のために研修を実施すること
- 5) 原則として200床以上の入院施設を有すること

当院の取り組み

地域医療支援病院として地域の医療機関や介護施設との連携をより促進し、地域に密着した病院として役割を果たしてまいります。



医療連携室よりお知らせ



医療連携室スタッフ



統括室長 北原るみ子



室長 桑名俊幸

11月より福岡和白病院の医療連携室に入職いたしました、北原るみ子と桑名俊幸と申します。福岡和白病院医療連携室の業務は多岐にわたっていますが、主に地域の皆様が安心して医療を受けられるよう、入院時の窓口として係っております。
また、福岡和白病院は12月に地域医療支援病院として承認されました。
今後は「地域医療支援病院」として、その機能を十分に活かし、これまで以上に地域の医療機関との連携強化に努め、地域の皆様へより良い医療を提供できるよう一層の努力を続けてまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



2014.11.11／グアム3泊4日

今回のグアム旅行は、食事が中心の旅行となりました。ステーキと海産物など美味しい物を食べました。一人前の量が多く、後輩と分け合い食べたことも良い思い出となりました。透明度の高い海で泳ぐこともでき、充実した旅行でした。

リハビリ／石津 章

院内旅行 の 思い出

Memories of Travel



2014.11.2／台湾2泊3日

今年は10月2日～4日の3日間で先輩方と3人で台湾へ行きました。

龍山寺や台北101、士林夜市などを観光しましたが、一番感動したのは「千と千尋の神隠し」の舞台となった九份でした。また機会があれば台湾へ行きたいです。

薬局／江藤 真未



2014.11.3／シンガポール3泊4日

院内旅行でシンガポールへ行ってきました。有名な観光名所巡り、買い物、多民族国家ならではの珍しいスイーツや食事を満喫しました。治安も良く、街並みも綺麗で非常に過ごしやすいです。雨季でしたが殆ど雨も降ることなく、天候にも恵まれた旅行となりました。

栄養科／北島 絵理佳



2014.10.5／沖縄2泊3日

10月5日～7日、2泊3日の沖縄フリープランに参加させて頂きました。沖縄ののんびりとした空気と、アグー豚やステーキなどの美味しい食べ物、古宇利島、首里城、万座毛などの綺麗な景色にとっても癒されました。特に、ホテルから見える海はエメラルドグリーンでとても透き通っていて、ずっと眺めていても飽きないほどでした。同期3人でたくさん食べ、笑い、癒され、とてもリフレッシュできる旅となりました。

総務課／田中・松永：診療情報管理室／大野



第1回 「明るく元気な体操フェスタ」 開催致しました!

医療連携室／山本 聖

平成26年9月30日(火)9:30～13:30

会場：福岡和白病院 会議室

参加者：96名(体操教室 参加経験者85名、未経験者11名)



9月30日(火)9時30分より、福岡和白病院にて「第1回 明るく元気な体操フェスタ」を開催致しました。あいにくの雨模様ではありましたが多くの方々に足を運んでいただき、総勢約100名の大イベントとなりました。このようなイベントは体操教室では今回初の試みでしたが、みなさんのキラキラとした笑顔に負けないよう、精一杯笑い、たくさん汗をかいていただきました。その後の病院見学では、ヘリポートや下肢静脈瘤レーザー治療室などを見ていただき、昼食後は当院の心臓血管外科医師 樋口DRに講演を頂きました。

改めて本日で参加頂いた皆様、誠にありがとうございました。次回のイベントではより一層みなさんに楽しんでいただけるようスタッフ職員一同頑張りますので、またのご参加心よりお待ちしております。



緩和ケア 『いのちのホームルーム』の 講師として参加してきました。

緩和ケア認定看護師・がん相談員／柴田 昌枝



今年度より文部科学省は「いのちの大切さを育む、がん教育」という視点で、児童、生徒を対象にしたがん教育モデル事業を実施しています。

その「いのちのホームルーム」は、NPO法人キャンサーサポートの方と一緒に進めていて、がんの経験者から、病床での不安や悲嘆、楽しいこと、あたりまえの一日、一日の大切さなど、体験を通じたお話と、看護師の立場から、がんに対して正しい知識・がん検診の大切さを、お話しさせていただいています。

一生涯のうちに日本人の2人に1人が、がんになり、3人に1人が、がんで亡くなっています。

10年後には、3人に2人が、がんになり、2人に1人が、がんで死亡するといわれています。

今、多くの子供たちが正しい知識のもと、命の大切さや、がんと共に生活されている方への理解が深まることは、重要なことだと思います。

私どもも、さらに知識や技術を深めて、患者さまやご家族から「和白病院でよかった」と思ってもらえるようにより質の高い医療とケアを提供できるようスタッフ一同研鑽を積んでまいります。

第2回「フリマみとま」開催！（福岡和白病院の駐車場内にて）



主催者：循環生活研究所
来場者数：約3,500人

東区三苫を拠点に地域で活動しておられるNPO法人循環生活研究所の第2回フリーマーケットを開催しました。

降水確率40%という事で心配していた天気も、当日は快晴の秋晴れ。当院からは産地直送野菜や手作り石鹸などを出店し、キッズ向けに救急車やドクターカーに試乗できるコーナーを設け子供たちに大人気でした。

次回は今年の春ごろに開催予定です。多数の来場お待ちいたします。

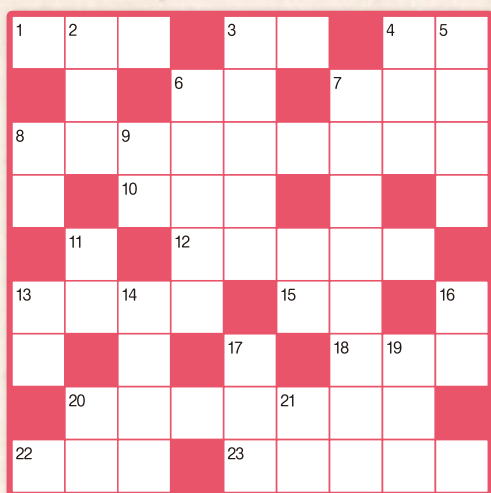
IT推進室 山本 明子



かん・た・んトレーニング

あたまの体操

クロスワードパズル



★解答は右下に掲載しています。

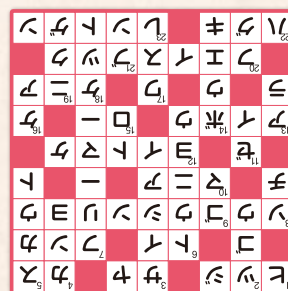
夕テのカギ

2. 物事をするに当たっての事情。具合。
3. 高校野球において、15回延長で勝敗がつかない場合は、後日〇〇〇〇〇〇を行う決まりとなっているが、選手の怪我などを考慮しタイブレーク制が試験導入される。
4. たずさわること
5. スポーツ界・芸能界などで、有望な人材を探し出したり引き抜いたりすること。また、その役目の人。
6. 11月から〇〇〇〇〇〇病専門医の石井正夫先生が着任された。
7. ノミの市のこと。5月と11月にNPO法人循環生活研究所とコラボして当院駐車場で開催されました。
8. 随分前のことに感じますが2014年に〇〇でオリンピックが開催されました。
9. 「開けえ〜〇〇」。アラビアン・ナイトの「アリババと40人の盗賊」で、盗んだ宝物が隠された洞窟を開くときの呪文。
11. 2014年「今年の漢字」は「〇〇」
13. 九州では〇〇と言われるが、クエのこと。鍋物などで高級食材として扱われます。
14. 外国と商品の売買をすること。国際間の商業取引。交易。
16. 当院の6階病棟には緩和〇〇の認定看護師がいます。
17. 歳とともに、というっかりの「物〇〇〇」が増えて困ります。
19. 肉芽：「にぐが」や「〇〇〇」と言われる外傷や炎症により欠損を生じた部分にできてくる、赤く柔らかい粒状の結合組織。
20. 「河豚」読めますか？
21. 思考や感情を言葉で表現する際の、完結した内容を表す最小の単位。

ヨコのカギ

1. 今年の干支
3. 刀剣の刀身の部分を入れる筒。「一を払う」
4. 酒〇〇：日本酒などのもろみを、压榨した後に残る白色の固形物のことである。
6. 尋ねること。質問。
8. 〇〇〇〇〇〇〇〇〇科の馬場健吉先生がこの度ヨーロッパの学会で発表しました。
10. ある物事に熱中している人。「カメラ」・「オーディオ」
12. 建築現場などでの地固めのとき、大勢で重い槌(つち)を滑車であげおろしすること。「〇〇〇〇〇の唄」は美輪明宏が自ら作詞作曲した1966年のヒット曲。紅白でも歌われ話題になりました。

13. 杉下右京(水谷豊)が係長を務める警視庁内の窓際部署「特命係」を舞台にした刑事ドラマ。
15. 数量・程度などが少ない、低い意を表す。「〇〇カロリー」「〇〇コスト」
18. アフリカ大陸東部の共和国。首都ナイロビ。コーヒー・茶・サイザル麻を産する。
20. インターネット上のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)である。「FB」と略されることもある。当院でも開設しています。是非ご覧ください。
22. 歯の根の部分を含む粘膜層。
23. ドイツの物理学者の名前。「X線写真」「X線」の略



★クロスワードの解答



災害拠点病院 開放型病院 地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院 基幹型臨床研修指定病院



社会医療法人財団 池友会

福岡和白病院

福岡和白

検索

〒811-0213 福岡市東区和白丘2-2-75

TEL.092-608-0001(代)

E-mail: info@f-wajirohp.jp

ホームページ <http://www.f-wajirohp.jp>

フェイスブック <http://www.facebook.com/wajiro>



ホームページ



フェイスブック